

「税で、生きる。」

会津若松市立大戸中学校3年 鈴木 渚紗

「今日から家族と離れて生活することが決まりました。」と突然言われ、私は小学校三年生の時に児童養護施設に入ることになりました。児童養護施設とは、保護者のいない児童や、虐待されている児童など、家庭での養育が困難な子どもたちが、安定した生活環境で生活できるよう支援する施設です。私の生活している児童養護施設では、朝昼晩栄養の整った食事ができたり、衣類を購入することができたりします。毎月おこづかいをもらい、買い物に行くこともできます。学校に通うこともでき、安定した生活が保障されています。

ある日私は、このような生活がどこからのお金でできているのか気になり、調べてみました。すると、私たちの暮らしは「税金」によって支えられていることを知りました。私が当たり前だと思って過ごしていた日々は、誰かが一生懸命に働いて稼いだお金によって成り立っていたのです。このことを知って私は税金のありがたみに初めて気付きました。

私たち子どもが払う税といえば「消費税」くらいです。消費税が10パーセントに上がったとき私は「最悪だ」「なんで払わないといけないの」と思いました。しかし、税金について調べたことがきっかけで、私の考えは変わりました。大人は子どもの想像を超えるほど多くの税金を払う義務があります。自分よりも多くの税金を払っている人がいるのに、私は消費税が上がったくらいで文句を言っただけでいい、むしろ感謝していく必要があると感じました。私もいつかは消費税以外の多くの税金を払って生きていくことになります。そのとき、マイナスな気持ちで払うのではなく、自分の払った税金が誰かの毎日につながっていると思って、前向きに払っていきたいと思います。

「税金とは何か」この問いが、私に税の考え方を支えるきっかけを与えてくれました。税金を払うことは義務であり、当たり前であるがその税金は当たり前ではない日々を作っていると思います。税金は単なるお金の循環ではなく、人と人をつなぐ輪であると感じました。自分が誰かの払った税金で救われたように、大人になったとき自分が税金を払って誰かを救う立場になれることをほかに思います。税金を払うことに前向きな世界になることを願っています。